



2013年3月13日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 畑中 好彦  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東 証 ・ 大 証 ( 各 第 一 部 )  
決 算 期 3月  
問 合 せ 先 広報部長 河村 真  
Tel : (03) 3244-3201

### アステラス製薬：2型糖尿病治療薬/SGLT2阻害剤 イブラグリフロジン (ASP1941) の 国内承認申請に関するお知らせ

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦、以下「アステラス製薬」）は、SGLT2阻害剤 イブラグリフロジン L-プロリン（一般名：以下「イブラグリフロジン」、開発コード：ASP1941）に関し、本日、2型糖尿病を適応症として厚生労働省に承認申請を行いましたので、お知らせします。

イブラグリフロジンは、アステラス製薬と寿製薬株式会社との共同研究において見出されたSGLT2 (Sodium-Glucose Co-transporter 2) 選択的阻害薬です。SGLTは細胞表面に存在する膜タンパク質で、ブドウ糖の細胞内への輸送をつかさどっています。SGLT2はSGLTのサブタイプの1つであり、腎臓近位尿細管でのブドウ糖再取り込みにおいて重要な役割を担っています。イブラグリフロジンはこのSGLT2を選択的に阻害することで、ブドウ糖の再取り込みを抑制し、血糖値を下げる薬剤です。

国内で実施した第III相単独療法試験において、イブラグリフロジン群ではプラセボ群と比較して、血糖コントロールの指標であるHbA1c値の有意な低下が認められるとともに、糖尿病治療薬としての安全性に問題がないことが確認されました。また、既存の糖尿病治療薬と幅広く併用可能なことも新規経口血糖降下剤として重要であることから、他の血糖降下剤（6種類）と長期併用投与した第III相試験を実施しました。その結果、他の血糖降下剤併用下においてもイブラグリフロジンの有効性及び安全性が確認されました。

アステラス製薬は、新規作用機序による経口血糖降下剤であるイブラグリフロジンを市場に投入することにより、新たな治療選択肢を提供することで、2型糖尿病治療に一層の貢献ができるものと期待しています。

以 上

## 2型糖尿病について

糖尿病は、体内の血糖値の調整が困難になる疾患であり、主に1型糖尿病と2型糖尿病の2つのタイプに分けられます。このうち2型糖尿病は以前「インスリン非依存型糖尿病」、または「成人発症型糖尿病」と呼ばれており、体内において血漿中の糖を体内に吸収する役割を担うインスリンが効きづらくなることとインスリンの相対的な欠乏から血糖値が高くなる状態をいいます。糖尿病の治療はまず運動療法と食事療法が行われますが、症状が進行するにつれて薬物療法が必要となります。